

2020年 第6回年間企画賞

資料作成：西村紗知

Mercure des Artsは執筆陣による選考の結果、2020年（2019年11月1日～2020年10月31日までの公演）の年間企画賞1～3位を選出し、ここに発表いたします。

今年は現在もなお続くコロナ禍の影響を、色濃く反映する結果となりました。今回惜しくも入選しなかった公演にも、執筆陣一人一人の推薦理由に時節柄が反映されていたことをここに伝えします。票数としては全体に分散するかたちとなったのですが、配信や観客数制限など、感染予防対策に悩みつつも決行した公演に多く票が寄せられました。公演の内容のみならず、開催者の姿勢にも印象付けられる一年になったと思います。

【1位】

《サイレンス》

2020年1月18日 ロームシアター京都

2020年1月25日 神奈川県立音楽堂

数多くの映画音楽を手がけるアレクサンドル・デスプラが、川端康成の短編小説「無言」を基に創作した新作オペラ

65 開館65周年記念
音楽堂室内オペラプロジェクト

「ダランド・ブダベスト・ホテル」
「シェイプ・オブ・ウオーター」アカデミー賞作曲賞受賞
映画音楽の巨匠 アレクサンドル・デスプラによる
初の書き下ろしオペラ、日本初演

原作：川端康成「無言」
作曲：アレクサンドル・デスプラ
演出：藤原 誠
衣装：ピエール・ロ・ピエール
出演：アンソニー・ワイルソン
ロマン・ボタカール
ローラン・ストラヴィンスキー（作曲）

2020年
1月18日（土）
18時開演
ロームシアター京都
サウスホール
チケット：全席指定
一般6,000円
学生2,000円

2020年1月25日（土）
14:00開演（13:00開場）
神奈川県立音楽堂
神奈川県立音楽堂（指定管理者：公益財団法人神奈川県芸術文化財団）
後援：在日フランス大使館/アンスタイク/フランス日本文化センター/ルカセンブル大佐館

全席指定（税込）一般6,000円 シルバー（60歳以上）5,500円
学生（4歳以下）2,000円

【2位】

びわ湖ホールプロデュースオペラ「ニーベルングの指環」第3日 《神々の黄昏》

2020年3月7日 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

2020年3月8日 YouTubeでの無料ライブ・ストリーミング視聴

【3位】

川島素晴 plays... vol.1 “肉体”

2020年3月24日 杉並公会堂小ホール



びわ湖ホールプロデュースオペラ「ニーベルングの指環」第3日
ワーグナー作曲 全3日
R. Wagner "Götterdämmerung" 新制作

空、前絶後の物語、クライマックスへ
4年にわたる「びわ湖リング」の完成

指揮：近賀竜典(びわ湖ホール芸術監督)
演出：ミヒャエル・ハンベ
美術・衣裳：ヘニング・フォン・キールケ
照明：田嶋茂博
音響：小野塚浩(びわ湖ホール)
演出補：伊藤輝吾
舞台監督：幸原浩司
管弦楽：京都市交響楽団
合唱：びわ湖ホール音楽アンサンブル
新国立劇場合唱団

(キャスト)	7日(土)	8日(日)
ジークフリート	カズマツアキラ	三ツツノイサ
ブルバヒルダ	スズキエミコ	地田 香織
アルベヒ	志村 文都	大山 大輔
クンター	石野 繁生	高田 裕宏
ハーゲン	藤原 秀知	高木 陸博
ワグネル	新藤由美子	高谷 潤香
ワグネル	山口 結実	中島 穂子
ワグネル	山田 祥子	桂川 洋子
ワグネル	杉山 田紀	高橋由美子
ワグネル	小野紗夢子	松浦 楓
ワグネル	竹本 節子	八木 寿子
ワグネル	金子 美香	真藤 純子
ワグネル	高橋 純理	田崎 純美

2020年 3月7日(土)・8日(日) 両日とも13:00開演 (12:15開場 19:00終演予定)
滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール大ホール

チケット情報
19:00開演 13:00開演
19:00開演 13:00開演
19:00開演 13:00開演
19:00開演 13:00開演

お問い合わせ：びわ湖ホールチケットセンター TEL.077-523-7130
びわ湖ホール TEL.077-523-7130



川島素晴 plays...
vol.1 “肉体”

2020年3月24日(火)
19:00開演 18:30開場
杉並公会堂 小ホール

◆選定にあたって

【1位】

川端康成の短編「無言」を原作に、『シェイク・オブ・ウォーター』でアカデミー賞音楽賞を受賞したアレクサンドル・デスプラが台本・作曲を手掛けるとあり、芸術に関心を寄せる幅広い層に当初から話題となっていた公演。映像、演出、作曲、演奏という舞台を構成するあらゆる点において完成度が高く洗練されており、作品（企画）の問題意識も非常にクリティカル。「無言」と「音楽」と「劇」とを強い緊張関係に置き、人間のコミュニケーションの本質へと迫っていく姿勢に、突き動かされるものがあった。

★参考レビュー

《サイレンス》（原作：川端康成「無言」） | 能登原由美
(http://mercuredesarts.com/2020/02/14/en_silence_yasunari_kawabata-notohoara/)
ボーダーレス室内オペラ「サイレンス」 | 西村紗知
(http://mercuredesarts.com/2020/02/14/en_silence_yasunari_kawabata-nishimura/)

【2位】

演出、演奏ともに世界トップクラスのスタッフを集め、びわ湖ホールが4年の歳月をかけて取り組んできた「びわ湖リング」の最終章が、新型コロナウイルスの世界的流行により、予定日のわずか1週間前に中止の決断を余儀なくされた。だが同時に、ダブルキャストによる2日間の公演のいずれも無観客上演とライブストリーミングの配信、さらにDVDの製作・販売を行うことを決定。ウィルスの災禍にあえぐ音楽界、あるいは舞台芸術界全体に一石を投じる試みとなった。そればかりか、公演規模や内容の充実度、その画期的な発信方法などを鑑みれば、これが日本のオペラ史、ひいてはクラシック音楽史に刻まれるべき歴史的事象となったことは間違いないだろう。

★参考レビュー

緊急特別企画 | びわ湖ホールプロデュースオペラ「ニーベルングの指環」第3日《神々の黄昏》
| 能登原由美
(<http://mercuredesarts.com/2020/04/14/biwako-hall-produce-opera-wagner-der-ring-des-nibelungen-gotterdammerung/>)

【3位】

コロナ禍突入初期、検温はなかったものの手指消毒、パンフは自分で、扉解放、市松模様座席にマスク着用、会話禁止と迅速帰宅の勧め。まだ「ええ!？」と笑えた状況ではあったが軒並み消えるコンサート、この上演に賭けた演者・作曲家の決死の覚悟と感染不安を抱えつつそれを受け止める観衆の異様な緊張。ジム閉鎖により鍛えが半端になったとのまさしく「半端肉体」を晒しソロから複数まで種々の演目に、肉体すなわち人間存在の丸ごとを投げ出し「今を生き切る」。二度と遭遇不可能な「人と時」を刻印する凄まじい「場」として歴史に残ろう。さらに、公演後の動画配信を見た視聴者によれば、爆笑の内にも「体を張るとはこういうことだ!」と本当に自分の体を使って示してしまう「現音バカー代」の侠気と狂気を知ったとか、これもこの公演の知力・体力・威力を示したと言えよう。

★参考レビュー

ヴォクスマーナ&川島素晴 | 丘山万里子

(http://mercuredesarts.com/2020/04/14/voxfumana43-motoharu_kawashima-okayama/)